

災害や事故に備える東濃西部送水幹線（緊急時連絡管）

1 東濃西部送水幹線（緊急時連絡管）とは

○大規模地震対策として

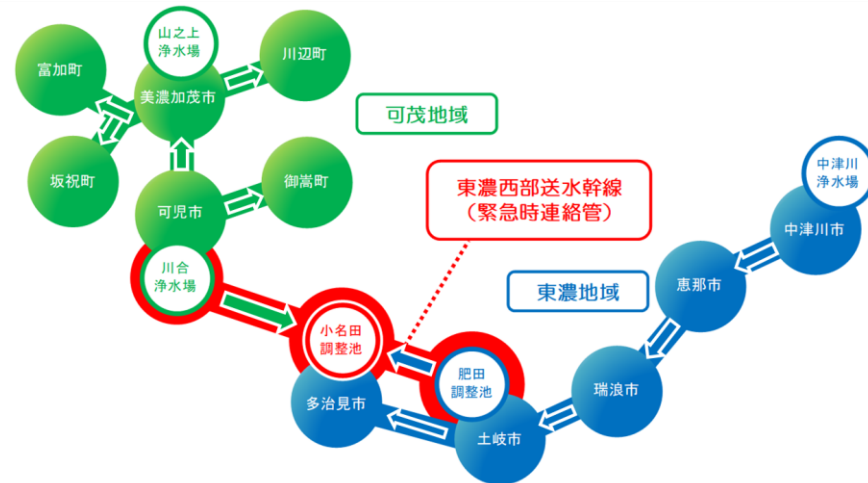
県営水道では、南海トラフ地震等に備えるため、防災・減災対策を進めています。東濃西部送水幹線は、その一環として、緊急時における送水機能の確保を目的に整備を行い、平成25年度から運用しています。

○事故対策として

当地域の施設は建設後50年を経過しているため、劣化による事故の発生が懸念されており、万が一事故が発生した場合でも、相互融通により断水被害を最小限にすることができます。

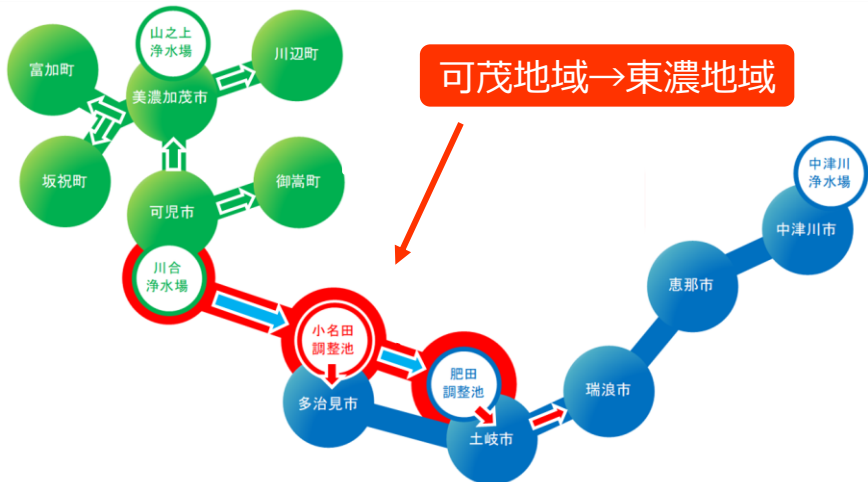
2 通常時（通常時の運用）

通常時は、多治見市や可児市などの人口の約4割が集中する地域への送水管として利用します。



3 緊急時（東濃地域のトラブル発生時）

東濃地域でトラブルが発生しても、可茂地域から送水することができます。



4 緊急時（可茂地域のトラブル発生時）

可茂地域でトラブルが発生しても、東濃地域から送水することができます。

